

2025年第3回中京競馬特別レース名解説

<第1日>

○四日市特別

四日市（よっかいち）は、三重県北部の市。地名は、毎月4のつく日に市が開かれたことに由来する。江戸時代は、伊勢国北部の行政・商業の中心地として、幕末から明治にかけては、菜種油や肥料の生産や取引の盛んな町として栄えた。その後は、繊維工業・機械工業・化学工業の進出が相次ぎ、中京工業地帯の代表的な工業都市となった。

○関ヶ原ステークス

関ヶ原（せきがはら）は、伊吹、鈴鹿両山地に挟まれた岐阜県南西端に位置する小盆地で、岐阜県不破郡の町名。古来より交通の要衝で、京を守る古代三関のひとつである不破関が置かれた。また、中山道・北国街道・伊勢街道の分岐点にあたり、宿駅が置かれた。1600年に、天下分け目の戦いと称される「関ヶ原の戦い」が繰り広げられた場所として有名。

○遠州灘特別

遠州灘（えんしゅうなだ）は、静岡県御前崎から愛知県の渥美半島・伊良湖岬までの沖合一帯を含む海域で、旧遠江国（静岡県西部）に面することからこの名が付いた。日本一長い全長115kmの砂浜は、ウミガメの産卵でも有名。波が荒く、避難港が少なかったことから、かつては航海の難所とされたが、現在は強い西風を利用した風力発電あるいはマリンスポーツの聖地としても知られる。

<第2日>

○木曽川特別

木曽川（きそがわ）は、長野県中西部の鉢盛山に源を発し、飛騨川と合流して伊勢湾に注ぐ延長229kmの川。下流には、水害から集落を守るため周囲を堤防で囲んだ「輪中（わじゅう）」と呼ばれる地域が広がる。長良川、揖斐川とともに木曽三川と呼ばれている。

○東海ステークス（GⅢ）

本競走は、1984年に創設された重賞競走。創設以降、実施時期や格付け等、幾度かの変更を経て、2025年より実施時期が1月から7月に移設され、『プロキオンステークス』の実施距離であるダート1400mを引き継ぐこととなった。

○御在所特別

御在所（ございしょ）は、三重県と滋賀県の県境に位置する鈴鹿山脈の主峰をなす、標高1,212mの山。鈴鹿国定公園に属し、全長2,161mのロープウェイは、御在所山上公園に通じ、展望台からは、四季折々の風景を楽しむことができる。

<第3日>

○日進特別

日進（にっしん）は、名古屋市と豊田市に隣接した愛知県中部の市。市の中心部を天白川が東西に流れ、その流域の平地には農耕地が広がる。現在は都市部への交通利便性が良いことから宅地化が進むとともに、多くの大学が立地する学園都市として発展を続けている。

○豊明ステークス

豊明（とよあけ）は、愛知県中部の市。一説によるとその名は、酒造業を営んでいた伊藤家の屋号「豊倉屋」の「豊」と、当時の元号「明治」の「明」に由来しているといわれている。隣接する名古屋市緑区にかけて、桶狭間の古戦場跡があることで有名。

なお、同市は中京競馬場の所在地でもある。

○浜松特別

浜松（はままつ）は、静岡県西部にある政令指定都市。磐田市、愛知県豊橋市などに隣接しており、繊維・楽器・輸送機器産業などが盛ん。戦国時代に徳川家康が17年間本拠とした浜松城や、織田・徳川連合軍が武田信玄に大敗を喫した三方ヶ原古戦場があることで有名。

なお、同市にはJRAの定員制場外勝馬投票券発売所であるエクセル浜松がある。

<第4日>

○桶狭間ステークス

桶狭間（おけはざま）は、愛知県豊明市と名古屋市にまたがる地域にある古戦場。1560年、10倍以上の兵力で尾張に攻め入った今川義元を、織田信長が破った地として知られている。

○名鉄杯（L）

名鉄（めいてつ）は、名古屋市中村区に本社を置く名古屋鉄道株式会社の略称。名古屋市を中心として愛知、岐阜両県にまたがる路線を持ち、沿線には中京競馬場の最寄り駅である中京競馬場前駅がある。同競馬場のスタンド東側には名鉄の元特急電車7000系パノラマカーを保存展示した「パノラマステーション」が設置されている。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○納屋橋特別

納屋橋（なやばし）は、名古屋市中村区にある橋。古くから経済の大動脈として名古屋を支えてきた堀川と広小路通に架かる。欄干には堀川開削の総奉行福島正則と郷土の三英傑である織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の紋所も見られる。

<第5日>

○中京スポニチ賞

スポニチは、スポーツニッポン新聞社から発行されているスポーツ紙スポーツニッポンの通称。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○三河ステークス

三河（みかわ）は、旧国名のひとつで、現在の愛知県東部にあたる。平安時代の律令施行細則である「延喜式」によれば、三河は上から二番目にあたる「上国」であったという。1872年には、尾張を併せて愛知県となった。

○香嵐渓特別

香嵐渓（こうらんけい）は、愛知県豊田市にある渓谷。江戸時代初期の寛永年間（1624年～1644年）に、香積寺の住職である三栄和尚が植えたと言われる約4千本のカエデがある。清流と紅葉の名所であり、多くの観光客が訪れる。

<第6日>

○浜名湖特別

浜名湖（はまなこ）は、静岡県西部にある総面積約65km²の汽水湖。今切（いまぎれ）より遠州灘に通じ、周囲長114kmは、汽水湖として日本一の長さを誇る。弁天島・猪鼻湖（いのはなこ）・引佐細江（いなさほそえ）などの名勝があり、養殖ウナギでも有名。

○サマースプリントシリーズCBC賞（GⅢ）

全6戦で実施されるサマースプリントシリーズの第4戦。

本競走は、1965年に創設された重賞競走。第1回は砂1800mの競走として実施されたが、幾度かの変更を経て、1981年に現行の芝1200mとなった。その後も短距離競走路線の改善に伴い、実施時期や競走条件が変更され、現在はGⅢのハンデキャップ戦として実施されている。

CBCテレビは、名古屋市中区に本社を置く放送局でJNN（TBS）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○揖斐川特別

揖斐川（いびがわ）は、岐阜県と福井県の県境にそびえる冠山に源を発し、岐阜県と三重県を流れる木曽川水系の河川。途中で木曽川、長良川と平行して流れ、河口附近の三重県桑名市で長良川と合流し、伊勢湾に注いでいる。

＜第7日＞

○知多特別

知多（ちた）は、愛知県南西部の半島、また同半島北西部の市。沿岸部の工業地帯には発電所や製油所などがあり、内陸部では稲作・園芸などの農業、沿岸部では漁業が盛ん。なお、尾張東部から知多半島へ農業・工業・水道用水を送っている愛知用水が地域の発展を支えている。西岸部の常滑市には、2005年に中部国際空港（セントレア）が開港し、中部地方の空の玄関口となっている。

○高山ステークス

高山（たかやま）は、岐阜県北部の市。日本一の面積を誇る市として知られ、その大きさは東京都に匹敵する。北東部には槍ヶ岳、乗鞍岳、穂高連峰などの飛騨山脈（北アルプス）を有する。旧高山城下の町人町の古い町並みと碁盤目形の街路などから、「飛騨の小京都」と呼ばれており、市の中心部を流れる宮川の東部には、江戸の風情が残されている。2016年にユネスコ無形文化遺産に登録された春秋の高山祭には多くの観光客が訪れる。

○長久手特別

長久手（ながくて）は、愛知県北西部の市。名古屋市に隣接しており、徳川家康と豊臣秀吉が戦った「小牧・長久手の戦い」の古戦場跡がある。2005年に開催された愛知万博の跡地には「愛・地球博記念公園（モリコロパーク）」が建設され、2022年には園内に「ジブリパーク」がオープンした。

＜第8日＞

○大垣特別

大垣（おおがき）は、岐阜県西部の市。古くから東西交通の要衝として、歴史的に重要な役割を果たしてきた。市内にある大垣城は、関ヶ原の戦いで、西軍の石田三成の本拠地にもなった。江戸深川を出発した松尾芭蕉が、弟子の曾良とともに約5か月をかけて東北・北陸の約2,500kmを巡り、「奥の細道」紀行を終えた場所としても知られる。

○サマーマイルシリーズ中京記念（GⅢ）

全4戦で実施されるサマーマイルシリーズの第3戦。

本競走は、1953年に行われた『中京開設記念』を翌年に改称して創設された重賞競走。

創設以来、ハンデキャップ戦として実施されてきたが、2025年から別定重量戦に変更された。

○常滑特別

常滑（とこなめ）は、愛知県知多半島西海岸中央部の市。地名は地盤が滑らかな粘土層であったことに由来するといわれている。平安時代末期頃から続く常滑焼の産地として、越前・瀬戸・信楽・丹波・備前と並び、日本六古窯のひとつとされる。